

藍染を行いました

公園内の作業場所の一部で育てたアイの生葉を使って藍染を行いました。身近で使っているジーンズなどは、化学染料で染めているようです。また、本藍染と言って、アイを発酵熟成した染液を使うと深い藍色に染まります。



今回の染色は、アイの生葉に含まれる酵素で染め付けます。その酵素が効く時間は収穫してから30分くらいと限られているので、アイを収穫してからは手順良く作業を進めることが重要です。

収穫後は、茎から葉を切り離し、葉だけを使用します。茎でも染められるようですが、色は灰色になるようです。染めたのは、白い絹のスカーフで、染まりやすいように、水に漬けておきます。

スカーフ1枚当たり10~15本のアイを収穫し、葉だけを使い、水を加えてミキサーで粉碎します。緑色の青汁のようになったものを不織布の袋に入れて濾します。こうして作った染液に、水を拭った絹のスカーフを浸します。数回軽く押し洗いしたものをしばって空気に晒します。すると、酵素が酸化して染液が淡い青色に変化します。これを繰り返すと色味は濃くなるようです。



好みの色合いになったものは、水で染液を洗い流します。この洗いは、他の物への色移りを防ぐためにしっかり洗っておくこともポイントです。

染め上がり、水洗いしたスカーフは、干し終われば作業終了です。生葉を使う藍染は、ジーンズなどの濃い藍色を見慣れた目には、淡い青色が新鮮に感じられました。



生葉を使う藍染は、葉を収穫してから染液に加工し漬け込むまでの時間に限りがあり、忙しい作業のようですが、準備を整えておけば簡単な作業でした。何より、染液から出して空気に晒していると青色に変化してくる様が幻想的で、仕組みを理解していてもメルヘンな工程でした。

今回の染色作業では、スカーフに絞りなどの細工を施していないため、仕上がりは単調ですが、ひと手間の細工で模様も出せるそうです。

